



【韓国】 総合指数は週間で2.5%安と3週続落、今週も不安定な相場か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.5%安と3週続落。ウクライナ情勢を巡る地政学的リスクの高まりを嫌気して売り優勢の展開。週明け21日は前週末の米株安の流れを引き継いで小反落し、22日も1%超の下落。ロシアがウクライナ東部への派兵を決定したことから投資家がリスク回避の姿勢を強めた。23日は買い戻しが入り、上値が重いながらも反発したものの、24日はロシアによる全面的なウクライナ侵攻を受けて2.6%安と急落した。主力株のサムスン電子をはじめ、ほぼ全面安の展開。節目の2700ポイントを割り込み、1月27日に付けた昨年来安値に接近。25日は前日の米株式市場の上昇が好感され、反発した。今週も不安定な相場か。3月1日は三一節のため休場。国内では製造業PMI、GDP改定値、物価統計などが発表される。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で32.7%安と暴落、今週もウクライナ情勢次第の展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で32.7%安と暴落。ロシアがウクライナに侵攻し、欧米が追加の対ロシア経済制裁を発表したことが嫌気された。プーチン大統領は前週末、ウクライナ東部の「ドネツク人民共和国」と「ルガンスク人民共和国」の独立を承認し、同地域にロシア軍を派遣するように指示。24日にはロシアがウクライナに侵攻し、欧米が追加の対露経済制裁を発表した。RTS 指数は21日に前日比13.2%安と急落し、24日は38.3%安と過去最大の暴落を記録。25日はロシアとウクライナとの停戦交渉への期待から26.1%高と反発した。個別銘柄では金融のズベルバンク・オブ・ロシアが47.6%安、エネルギーのロスネフチが40.7%安となるなど金融・エネルギー株が軒並み暴落した。今週はウクライナ情勢が引き続き重しか。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は0.4%安と4週ぶり反落、今週は強弱感対立でもみ合

いか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.4%安と4週ぶりに反落。強弱感の対立やウクライナ情勢緊迫化によるセンチメントの悪化で上下に振幅したが、総じて底堅い展開となった。前週末まで3週続伸したベトナム株は強弱感が対立し、1日ごとに上昇と下落を繰り返した。VN 指数は23日に1520.78ポイントまで上昇し、1月10日に付けた史上最高値まで1.0%に接近した。ロシアがウクライナに侵攻した24日はセンチメントが悪化し、VN 指数は一時、前日比2.0%安まで下落したが、終値では1.2%安と下落幅を縮小して終了。25日は海外株高を追い風に0.3%高で終了した。個別銘柄では金融、エネルギー株が上昇し、指数を支えた一方、不動産、食品加工、鉄鋼株が下落し、指数の重しとなった。今週は強弱感の対立で引き続きもみ合いか。

▼指数チャート



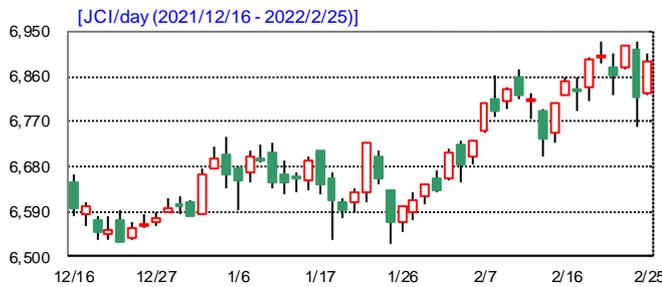


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.1%安、6900 ポイントを挟んだもみ合い

ジャカルタ総合指数は週間で0.1%安と4週ぶりに小幅反落。一進一退の値動きが続いた。週初の21日は終値で6900ポイント台に到達し、前週末に続き2営業日連続で過去最高値を更新。22日はウクライナ情勢を巡る地政学リスクの高まりを受けた世界同時株安で3日ぶりに反落したが、23日は引け際に買われた効果で、2日ぶりに過去最高値を更新した。24日はロシアがウクライナ侵攻を開始したことで売られ、指数は前日比1.5%安と反落した一方、25日は1.0%上昇して取引を終えている。今週は1日に2月のCPIが発表される予定。28日はムハンマド昇天祭、3日はサカ暦新年（ニュピ）の祝日のため休場。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 3.9%安、今週は終値で 3300 ポイント回復に期待

ストレーツタイムズ指数は週間で3.9%安と続落。週後半は終値で3300ポイントを割り込む展開となった。週初の21日は反発したが、22日はウクライナ情勢の緊迫を受けて前日比1.0%安と反落。23日は21年10-12月期の純利益が前年同期比で14%減少したオーバーシー・チャイニーズ銀行が指数下落を主導し、終値で3400ポイントを下回った。24日はロシアによるウクライナ侵攻が売り材料となり、前日比3.4%安と3日続落。一方、25日は1月の鉱工業生産が市場予想から下振れしたものの影響は軽微で、反発して取引を終えた。今週は2日に2月の製造業PMI、4日に1月の小売売上高が発表される予定。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.9%安、ロシアのウクライナ侵攻開始を嫌気

SET 指数は週間で1.9%安と4週ぶりに反落。ロシアによるウクライナへの侵攻開始が指数を押し下げた。週初の21日は、21年10-12月期のGDPが前年同期比1.9%増と市場予想から上振れたものの、ウクライナ情勢の緊迫化が嫌気され、指数は前営業日比1.1%安と4日ぶりに反落。22日に続落した後、23日はいったん買い戻されたが、24日は世界的な株安に連動して前日比2.0%安と反落した。ただ、25日は反動で買われ、前日から1.0%上昇して取引を終えている。今週は28日の1月の鉱工業生産に続き、4日には2月のCPIが発表される予定。外部要因ではOPECプラスの閣僚級会合が焦点になりそうだ。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.7%安、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

クアラルンプール総合指数は週間で0.7%安と4週ぶりに反落。1週間を通じて終値で節目の1600ポイントを下回った。週初の21日は幅広い銘柄に売りが出て、前営業日比1.3%安と続落。22日も売り優勢の展開となったが、23日は4日ぶりに反発した。24日は金融株が下げを主導し反落した一方、25日は前日のNYダウが上昇した流れを引き継ぎ、場中に一時1600ポイント台に乗せ、終値で前日比1.1%高と反発して取引を終えている。今週は3日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。外部要因ではウクライナ情勢のほか、パウエルFRB議長の議会証言が相場を左右する展開になりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。